

2. 方法

本研究は、前述の目的のもと、複数の下位研究によって構成しており、各下位研究の方法は、それぞれで異なる。本研究全体としては、研究期間中、以下のような方法で研究を進めた。

初年度の平成 22 年(2010 年)度は、活用方法試案としての活用支援ツールに関する質問紙等による実証を通した改定版を作成した。併せて今回実証する活用支援ツールは用いられていないが、ICF/ICF・CY を活用してきた学校への聞き取り調査を通した効果の検討を行うとともに、多職種間連携に活用した事例、生徒本人が活用する事例、幅広い障害種の事例について収集・分析することにした。

最終年度の平成 23 年(2011 年)度は、前年度の取組をもとにしながら更に検討し、得られた成果について Web サイト，雑誌，所内講義，所外研修会，フォーラム，セミナー等を通して普及を図るとともに研究成果報告書としてまとめることにした。